

関西教育行政学会
会報
第11号

The Kansai Society for Educational Administration

〒606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学大学院教育学研究科内
関西教育行政学会事務局
TEL & FAX: (075)753-3080
Mail: kansaisea@gmail.com
ホームページ <http://ksea.jp>

■■■■■■■■■■ 11月例会のご案内 ■■■■■■■■■■

【日時】 令和元年11月16日(土) 午後2時から5時

【場所】 滋賀大学大津サテライト 会議室
(詳細につきましては下記の地図をご参照ください。)

【報告】 ※11月例会は2019年度研究推進特別企画として開催します。

〈パネルディスカッション〉

教育行政学における知的蓄積の継承と刷新

—若手研究者による「教育行政学」講義実践の可能性—

趣旨説明 山下 晃一 会員(神戸大学/研究推進担当理事)

実践報告①「若手研究者としての院生にみる教育経験と研究力量の相互関係」
西川 潤 会員(京都大学大学院・院生
/日本学術振興会特別研究員)

実践報告②「青年期教育としての大学授業実践と授業担当者の自己形成」
太田 知実 会員(神戸大学大学院・院生)

実践報告③「近年における学生の変化と大学授業実践における力量向上」
谷村 綾子 会員(千里金蘭大学)

コメント「若い大学教員の成長過程と『教育行政学』講義をめぐる論点
—大学教育実践の観点から—」
服部 憲児 会員(京都大学)

コーディネーター 大野 裕己 会員(滋賀大学)

※報告タイトルはいずれも仮題

【企画趣旨】

〈パネルディスカッション〉 教育行政学における知的蓄積の継承と刷新

—若手研究者による「教育行政学」講義実践の可能性—

周知のように、高等教育機関の置かれた政策環境の大幅な変容に伴い、大学院生やポスドクを含む若手研究者（および志望者）の苦境が報じられてきた。

他方、学会という存在に着目したとき、教育行政学に関連する全国学会の数が増加する中で、大学教員の採用や評価において、全国学会どころか国際学会での研究発表がデファクトスタンダードになり始めた今、地方学会の意義は鋭く問い直されている。

こうした状況を考えると、関西という比較的まとまりあるエリアで、大きくない規模の学術的コミュニティである本学会においては、研究面もさることながら、教育面においても若手研究者の大学等での講義経験について、一定の“面倒見の良さ”を発揮して、彼らの教育力量向上を支援するような試みが積極的になされて良い。単なる履歴上の字句としての教育歴だけではなく、教える側の効力感や当該機関への貢献度の向上等、実質を伴った教育力量向上を、丁寧に支援していける潜在力がある。

とはいえ、「昔はこうだった＝自分は上手くいった」的な懐古主義、「黙って背中を見ろ＝貴重な経験をじっと黙って聞け」的な徒弟制主義などを展開しても、今の若い世代の研究者に対して有効なのか、彼らの自主性や自己効力感を疎外しないか、彼らの生育歴や感性・経験知の質や水準に的確に対応するものか、昨今の大学および学生の変化を十二分に理解したものか、等の諸点で限界を感じる。

教育面での支援とはいえども、それこそベテランや中堅層が「教員風」「先輩風」を吹かせて若手に（意図せずとも）抑圧的・強迫的に「指導」するだけでなく、現代の環境変化の中で高等教育の真の質保証に悩み、日々取り組む同志としての水平的連携の側面も持ちながら、また、若手同士の教育力量向上に向けた自生的なネットワーク・情報交換を活性化するような支援もあってよいはずである。このようなことが可能となれば、地方専門学会としての存在感も、よりいっそう増すのではないか。逆にこうしたことができなければ、若手にとって魅力的な場所とは言いがたいものになってしまうかもしれない。

今回のパネルディスカッションでは、若手・中堅研究者による大学授業実践報告を軸としながら、彼らがどのような課題に直面し、何に悩み、いかなる工夫を繰り返しているのか、研究活動との関係をどう捉え、自らの成長をいかに考えているのか、等、基本的な事実確認を行いたい。その上で、もし本学会が、教育活動面においても彼らの支援をなしうるとすれば、果たしてそれは、いかなる形でなしうるのか、どうすべきなのか、を考える手がかりとして、高等教育実践に取り組んできた研究者から、自らの成長過程をも含めた率直なコメントを求めたい。

翻って、科研費の申請項目からもその名前が消え、また、教職課程の再課程認定に伴い「教育の制度や経営」等の名称へと変更され、存在感が薄まっている“教育行政学”の今日的存在意義、あるいは、教育行政学をめぐる教育と研究の相互関係について考え直す契機としたい。

山下 晃一（神戸大学／研究推進担当理事）

【会場案内】「滋賀大学大津サテライト」

〒520-0056 大津市末広町 1-1 日本生命大津ビル 4 階

TEL 077-524-3692



○交通アクセス

JR 琵琶湖線（東海道本線）「大津駅」下車、徒歩約 1 分
（JR 大津駅前日本生命大津ビル 4 階）

※上記図は、滋賀大学のホームページ（https://www.shiga-u.ac.jp/information/info_campus-access/info_campus-access_route/#ootsu-sata）より引用しました。

■□■□■□■ 紀要編集委員会からのお知らせ ■□■□■□■

【編集委員会の構成】

編集委員長 服部 憲児（京都大学）
編集副委員長 大野 裕己（滋賀大学）
編集委員 大谷 奨（筑波大学）
同 川上 泰彦（兵庫教育大学）
同 宮村 裕子（畿央大学）
編集幹事 松本 圭将（京都大学大学院・院生）

編集委員会事務局 連絡先

住所 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院教育学研究科内
関西教育行政学会紀要編集委員会事務局

TEL・FAX 075-753-3080

メールアドレス kseakiyou@gmail.com （※今年度より編集委員会専用アドレスを使用します）

【『教育行財政研究』論文投稿要領】

1. 『教育行財政研究』論文には、「自由研究論文」と「研究ノート」が含まれる。
2. 「自由研究論文」は、本学会の当該年度および前年度の例会（1月～12月）において口頭発表したものとする。
3. 「研究ノート」は、「自由研究論文」に馴染まない「外国の教育事情の紹介」「文献紹介」「実践報告」「時事評論」等を内容とする。
4. 論文は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
5. 編集委員会が特に指定する場合を除き、「自由研究論文」は、本紀要10頁（46字×37行）以内、「研究ノート」は5頁（46字×37行）以内とする。ただし論文タイトル及び氏名・所属に7行とり、本文は8行目からはじめる。この枚数には、図・表・註・引用文献・参考文献等を含むものとする。著者は、引用文献・参考文献リストを本文・注と別に作成・提出すること。但し、提出は採録決定後でも可とする。引用文献・参考文献リストの書式は、原則として科学技術振興機構のSIST02 (http://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf) に従うものとする。
6. 論文原稿には、(1) 英語による論文題目、執筆者名及びその所属、(2) 英文アブストラクト（45字×18行）を添付する。
7. 原稿はPDFファイルの形式で、電子メールの添付書類として提出する。原稿は、A4版用紙に横書きで46字×37行とし、ワープロソフト(Word、一太郎等)により作成する。審査の上、掲載可と判断された場合、改めて原稿の電子データを電子メールの添付書類として提出する。その際の形式はワープロソフトのままの形式とし、PDFファイルは認めない。
8. 論文の投稿については、紀要編集委員会に対して毎年11月30日17時までに投稿の意思表示（所定の申し込み用紙による）をし、1月10日17時までに原稿を提出するものとする。
9. 本誌に掲載された論文等の著作権については、本学会に帰属する。また、著作者自身が、自己の著作物を利用する場合には、本学会の許諾を必要としない。採択された論文等はオンラインで公開される。

【紀要第47号への投稿申込について】

『教育行財政研究』第47号（2020年3月発行予定）への「自由研究論文」及び「研究ノート」への投稿申し込みを受け付けます。「自由研究論文」への投稿資格は、2018年1月例会から2019年12月例会（大会）において発表した会員です。なお、「研究ノート」は、その性質上、例会・大会でいまだ発表していない場合でも投稿可能です。

投稿資格を有し、かつ投稿を希望する会員は、所定の申し込み用紙に必要事項を記入の上、件名「投稿申込」として11月30日（土）17時までに編集委員会の専用メールアドレス（kseakiyou@gmail.com）までメール添付でお送りください。所定の申し込み用紙は、学会HP (<http://kseai.jp>) からダウンロード可能です。なお、原稿の投稿締め切りは2020年1月10日（金）17時です。ご不明な点などございましたら、事務局までお問い合わせください。

【紀要審査手続きについて】

編集委員長は、理事会の同意を経て会長が委嘱し、編集委員長は、専門分野や経歴等勘案して編集委員若干名を推薦し、理事会の同意を経て委員を委嘱します。

このようにして構成された編集委員会が、期限までに提出された規定分量内の「自由研究論文」及び「研究ノート」の審査を行います。編集委員会では投稿された「自由研究論文」及び「研究ノート」を一つひとつ丁寧に読み、慎重かつ厳正に審査し、合議によって掲載の可否を決定します。

なお、既にご案内の通り、多様化する研究テーマに対応するため、「自由研究論文」及び「研究ノート」1本ごとに委員以外の会員1名が査読に加わる場合があります。上記の審査は委員以外の査読者の査読意見も含めて行われます。

【年次大会】

2019 年度第 35 回大会は、12 月 15 日（日）に京都大学吉田キャンパスにて開催いたします。

【例会報告のお願い】

例会報告をご希望の方は、例会担当の高田理事、開沼理事もしくは事務局までご連絡をお願いします。

【寄贈図書】

下記の図書が寄贈されました。閲覧を希望される方は事務局までご連絡ください。

- ▶ 北海道大学大学院教育学研究院教育学研究室・学校経営論研究室『公教育システム研究』第 18 号、2019 年。

【会費納入のお願い】

2019 年度学会費を未納の方は、早急に納入をお願いいたします。一般会員は 7,000 円、学生会員は 3,500 円です。名誉会員につきましては会費の納入は不要です。
会費の納入状況につきましては、遠慮なく事務局までお問い合わせください。

郵便振替口座番号： 01000-8-34227 加入者名： 関西教育行政学会

他の金融機関から当学会郵便振替口座へお振込みをしていただく際は、以下の振込用の店名・預金種目・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	109
店名 (カナ)	一〇九店 (イチゼロキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0034227
カナ氏名 (受取人名)	カンサイキョウイクギョウセイガツカイ (全て大文字)

【事務局からのお願い】

所属、住所、メールアドレス等が変更になりましたら、お手数ですが事務局までご一報ください。

【事務局の連絡先】

住所 〒606-8501
京都市左京区吉田本町 京都大学大学院教育学研究科内
電話 & FAX 075-753-3080
Mail kansaisea@gmail.com